

# 興亜火災神戸センター

設計者：株式会社 竹中工務店 福山國夫、上田博之  
池田英美、鍋谷めぐみ  
施工者：株式会社 竹中工務店 植田光治



全景写真

## 建築概要

建設地：兵庫県神戸市北区鹿の子台北町 8-2-3  
 建築主：興亜火災海上保険株式会社  
 （現在は、日本興亜損害保険株式会社）  
 設計：(株)竹中工務店大阪一級建築士事務所  
 施工：(株)竹中工務店 他 8 社 JV  
 竣工：1999 年 2 月  
 建築面積：4,362.22 m<sup>2</sup> 延床面積：12,110.07 m<sup>2</sup>  
 階数：地上 3 階、地下なし、高さ：16.25 m  
 構造種別：プレストレストコンクリート造（PC 圧着工法）

## 選評

興亜火災神戸センター（建築主は、現在は日本興亜損害保険株式会社に社名変更）は、同社の電算センターとして神戸市北区鹿の子台のリサーチパーク内に建設されゆったりとしたランドスケープの中に、外観に小気味好い変化を与え、電算センター特有の閉じて、硬い感じを和らげ瀟洒な感じを与える建築となっている。

応募資料によれば、クライアントの条件である「PR 効果に優れた特長ある電算センター」「フレキシビリティに富む電算機室空間」「災害に強く高い耐震安全性を有する施設」「着工後 1 年以内に機器搬入を可能とする工期」「得られる性能に対して適正な建設コスト」を達成するために、プレキャスト(PC)工法を用いたプレストレストコンクリート(PS)構造と免震構造を組み合わせた構造システムを採用したとのことである。

最近では免震構造を採用することによって工期や工事費がかかるという考えは通用しなくなっているようで、困難な条件をスマートに纏め上げた力量は並大抵ではない。

更に、免震建物特有の外周のスライド部分のディテールや免震構造を生かした玄関回りのデザインなど美しく配慮されている点等から評価に値する作品と考える。  
 (石原 直次)

## 免震化した経緯及び企画設計等

興亜火災神戸センターは、横浜日吉センターと並び同社の中枢拠点となる電算センターとして計画された。保険会社の心臓部に対する建物要求性能は非常に高く、顧客 PR、環境配慮、フレキシビリティ、耐震安全性、短工期、適正コストのバランスが求められた。本建物の設計は兵庫県南部地震の記憶も新しい 1997 年で、「大地震時にも建物全体の健全性を維持することができる」点が決め手となり、免震構造が採用された。建築的には、対話の少ない建物用途の特性から来る単純さを避け、親しみやすいヒューマンな表現とした。見せる免震装置や免震層見学スペースなど免震建築をアピールできる作品となっている。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

構造計画のポイントは、「フレキシビリティを確保するための大スパン化」と「免震構造を効果的に機能させるための剛性の確保」という相反する 2 条件を満足させることであった。そのため、剛性と重量を確保し得る PS 構造によるラーメン架構を、二種類のゴムとベアリングを最適配置した免震装置の上に載せる構造計画とした。また、環境配慮と工期短縮の目的から、柱梁部材を鋼線等で緊結して構築する圧着工法を採用した。履歴減衰の少ない PS 構造に免震装置という集約型エネルギー吸収機構を付加する新しい構造システムにより、耐震安全性を確保すると共に、フレキシビリティ・環境性・耐久性・工期のいずれも高性能を有する免震建物を実現した。

